2020 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書　提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2022 年　5 月 31 日

ふりがな	えぬぴーおーほうじんおかやまけんじへいしょうじをそだてるかい			
大学 研究機関名	所属：NPO 法人岡山県自閉症児を育てる会 （研究機関：新見公立大学大学院/広島大学大学院医系科学研究科　成人看護開発学）			
代表者名	役職名	研究員	氏名	福島　康子
連絡先	住所	709-0826 岡山県赤磐市和田 194-1　NPO 法人岡山県自閉症児を育てる会		
	TEL	086-955-6758		
	E-mail	（代表）acz60070@syd.odn.ne.jp （研究者）yasuko-fukushima@hiroshima-u.ac.jp		
	URL	http://sodaterukai.org		
助成額	1,298,000　　円			
研究要旨	本研究では,大学生を対象に意識調査を実施し,自閉症（Autism Spectrum Disorder :ASD）者に対する態度を検討した。調査の結果、偏見が極めて強い層が 3%いること、自閉症を持つ大学生の事例に対して、診断名が伏せられている場合、パニックの傾向を示す事例である場合に偏見がより強くなる傾向にあることが明らかとなった。本人が障害をカミングアウトできる社会的包摂を促進するためには、周囲の人々がこれらの症状を理解するための教育が必要である。			
研究の目的	障害がある人の困難の多くは障害そのものではなく、障害があることにより受ける偏見や処遇の不利によるもので、社会の反応による生活のしづらさである。自閉症スペクトラム（ASD）に関してもさまざまな取り組みが推進されているが、成人 ASD 者への支援は依然として十分ではない。ASD 者の生活のしづらさを減少させるためには、ASD 者に対する反応を社会の側から明らかにする必要がある。本研究の目的は、一般の人を対象に、ASD 成人の困難場面に対する態度を非親和性の指標を用いて明らかにすることである。			
研究の 実施方法	調査方法 ：コロナ禍にて、当初の計画を変更し、日本人大学生約 1500 名を対象にオンライン調査を実施した。調査期間は、2021 年 11 月～2022 年 2 月までであった。 事例は、海外の先行研究で用いられた、2 種類を日本語訳化し、2 事例に ASD の「診断名あり」または「診断名なし」を割り当てた 4 種類として作成した。研究参加者に対して、4 種類の事例のうち 1 つをランダムに提示し、割り当てたタイプに対する人物への態度について質問した。統計解析は、回帰分析により、基本属性等を調整した上で事例のタイプ、ASD の診断ラベルの有無、非親和性の関連を検討した。 本研究は、広島大学疫学倫理審査委委員会の承認を得て実施した。			

研究の成果	調査票を配布した 1,486 名のうち 825 名（55.5%）が回答した。分析目的に応じてケースを選択し、分析に含めた。対象者の大学生のうち、過去に ASD の人と何らかの形で接触した経験がある人は 48%であった。強い偏見（得点率 90%以上）を示した人は対象者の約 3%であった。非親和的指標を目的変数とした重回帰分析では、事例のパターンと診断名の有無が統計的に有意に非親和性のレベルと関連していた。本研究 は、(1) 自閉症に対する態度研究の質問方法 (2) 当事者、関係者ではなく、周囲の一般の人（本研究では大学生）を対象とした点において特徴があり、自閉症に対する態度研究の発展に資するものと考える。当事者にとっての困難を周囲の人に考えさせるアプローチによって「何か違う状態」である場面に、人々はどう向き合っているかという実態の解明に貢献すると考える。
研究の成果の 公表状況 今後の公表 予定について	Attitudes toward People with Autism Spectrum Disorders among Japanese University Students: Vignette-based study. Yasuko Fukushima, Yuki Yajima, Michiko Moriyama 4th Technological Competency as Caring in the Health Science 2022 2022 年 12 月 自閉スペクトラム症(ASD)をもつ人々に対する大学生の認識の類型と社会的距離との関連 福島 康子, 矢嶋 裕樹, 森山 美知子 日本看護科学学会学術集会講演集 43 回 216-217 2023 年 12 月